

## 10. PCB汚染地区の母親とその児に関する研究

(分担研究者) 高 久 功 (長崎大学)

(研究協力者) 辻 芳 郎 (長崎大学)

( " ) 吉 田 彦太郎 ( " )

( " ) 山 辺 徹 ( " )

大 塚 喜久雄 (長崎県衛生公害研究所)

昭和43年以来、多数の患者が発生したPCB中毒症(いわゆるカネミ油症)はすでに10年以上を経過した現在でもなお、医学的にも診断、治療、成長発育及び次世代への健康影響等、多くの問題をかかえている。

長崎県では長崎市、五島列島に多数のPCB汚染食用油摂取者が居住しており、油症患者と認定された者は683名である。

これらの油症患者の中には汚染油の経口摂取でなく、母乳又は経胎盤により発生した者も相当数認められるので妊娠可能な油症患者にとっては深刻な問題である。

各臨床症状からみても、今だにPCBの影響が根強く残っており、油症児には非特異的な症状や虚弱傾向を訴える者が多い。

我々はPCBの人体影響を明かにし、今後の健康管理の資とするため、五島列島玉之浦地区の小・中学校児童、生徒を対象に呼吸機能および血清免疫複合体の調査を行い、油症との関係を検討した。

また、PCBの母体と胎児への影響について調査し、化学物質の母体から胎児、新生児への移行の解明を試みた。

次の三つの研究項目について別紙のとおり報告する。

### 研 究 項 目

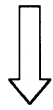
- I. PCB汚染地区における児童、生徒の気管支喘息調査およびPFRによる呼吸機能の検討
- II. 油症児における血清免疫複合体
- III. PCBの母体と胎児への影響について

昭和55年3月

長崎油症研究班長

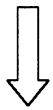
長崎大学医学部教授

高 久 功



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



昭和43年以来、多数の患者が発生したPCB中毒症(いわゆるカネミ油症)はすでに10年以上を経過した現在でもなお、医学的にも診断、治療、成長発育及び次世代への健康影響等、多くの問題をかかえている。